

「服育」国際フォーラム

チクマと甲南大学が共催



株式会社チクマ(大阪
市・竹馬準一郎社長)と
甲南大学環境総合研究所
(所長・谷口文章教授)
はこのほど、「服育」国
際フォーラム「文化をつ
なく服・こころを育む衣
」を開催、国内外の有識者
を招き衣服を通じて環境
問題を考えるシンポジウ
ムを行った。

ユニフォームの総合商
社である同社は衣服を通
じて「子どもたちの豊か
なこころ」と「健やかな
からだ」を育むことを目
指し「服育」を提唱。独
自の取り組みとして同社
の社員が「出前」して行
う「制服の着こなし方講
座」を18年前の1994
(平成6)年から続けて
いる。

開催の冒頭に竹馬社長
があいさつし、「服育」
を考えるきっかけになっ
たのは制服を「着崩す」
ことの横行です。彼らに
とってはファッションか
もしれないがこんなこと
が続けば学生服のマーケ
ットがつぶれてしまう。
そこで我々は学生服の着
こなし方のプレゼンテー
ションを行うようになり
ました。好評で年間20
0校近い学校から要請を
いただいています。そう
なると我々の活動も社会
的に影響力を持つことにな
ってまいりました。そ
のようなところで環境教
育が専門の谷口教授と
接点を持つことができました。
甲南大学には学術
的に取り組んでもらって
教育活動に生かしてい
ただき、チクマの商品現場
を実行をし、啓発をす
る。その結果を大学にフ
ィードバックする。こう
いったサイクルを今後も
続けていければと期待し
ています」と語り、今後
も産学連携事業への取り
組みに強い意欲をみせ
た。

午後からはチクマの藤
田隆司氏から「環境教育
における「服育」〜衣服
のもつ力〜」と題した講
演が行なわれた他、コン
サートやファッションシ
ョーが開かれ、なごやか
な雰囲気の中、環境にや
さしい衣服の紹介が行な
われた。

最後に「災害から学ぶ
生活の知恵〜かけがえの
ない命をめぐって〜」と
題してパネルディスカッ
ションを開催。東日本大
震災でボランティアを行
っているNPO法人代表
者や阪神淡路大震災当時
の行政担当者、タイの洪
水を経験した大学教授な
どが参加し、災害時にお
ける衣服の役割について
熱心な討論が交わされ
た。

